

10. 科研 TSH RIA kit の基礎的、臨床的検討

○亀井 哲也 分校 久志
久田 欣一
(金沢大・核)

今回、英国ラジオケミカルセンター製の TSH RIA kit を入手し、基礎的、臨床的検討を行なったので報告する。

今回のキットの原理は2抗体法であり、方法としては delayed addition method を採用している。インキュベーション時間が短かく、アッセイを行なった当日のうちに結果を出すことも可能である。

結果：標準血清または検体と抗血清を加えたあとのインキュベーション時間を変化させると、時間と共にカウントは漸減の傾向を示した。さらに、 $^{125}\text{I-TSH}$ を加えたあとのインキュベーション時間を変化させると、カウントは漸増の傾向を示した。第二抗体を加えたあとのインキュベーション時間は2分から20分の間でカウントの変動はみられなかった。

インキュベーション温度による影響は比較的少ないが、 4°C の場合カウントが低く出、 37°C ではカウントが高目に出る。いずれの温度でも、低濃度ではカウントが低目に出る。

再現性は、異なるアッセイ間、同一アッセイ間ともに良好で、中・高濃度血清では変動係数 4.1～5.4%であった。

回収率は 105.4～106.1% と良好で、希釈試験の結果も満足できるものであった。

TSH キット「第一」との相関は $r = 0.99$ と非常に良好であった。

正常例の検討では、平均 $3.8 \mu\text{V/ml}$, SD $2.0 \mu\text{V/ml}$ であった。

11. CEA リアキットの one step 法と two step 法の臨床的検討

○鈴木 雅雄 今枝 孟義
又吉 純一 柳川 繁雄
土井 偉誉
(岐大・放)

12. 肝疾患における HA 抗体と HBc 抗体測定 (RIA 法) の臨床的検討

○柳川 繁雄 今枝 孟義
又吉 純一 鈴木 雅雄
土井 偉誉
(岐大・放)

13. 肝・胆道疾患における CG, SLCG の臨床的検討——第2報

○鈴木 雅雄 今枝 孟義
又吉 純一 柳川 繁雄
土井 偉誉
(岐大・放)

14. TIBC, UIBC のラジオアッセイの微量化について

○林 大三郎
(名大・放部)
齋藤 宏
(同・放)

TIBC および UIBC のラジオアッセイは、現在レゾマット Fe キットとして市販されている。比色法に比較して血清量は少なく、鉄の汚染もないことから精度は高かった。しかし、血清量は少ないとはいえ TIBC で 1.0 ml , UIBC で 0.5 ml も要することは他の化学検査とのかかわり合いからみて不満もある。また、乳幼児の鉄欠乏性貧血の診断には、これだけの血清量を得ることは困難であった。

そこでわれわれは TIBC, UIBC, 合わせて 1.5 ml の血清量を 0.3 ml (微量法) にすることを試みた。従来法と微量法との主な相違点は最終血清量を 0.5 ml から 0.1 ml にしたこと、次に血清鉄除去用クエン酸濃度を 0.6% から 0.15% に、また鉄パイアル中の鉄量は $3.0 \sim 3.5 \mu\text{g}$ ($600 \sim 700 \mu\text{g/dl}$ 相当) であったものを $1.3 \sim 1.6 \mu\text{g}$ ($1,300 \sim 1,600 \mu\text{g/dl}$ 相当) に、操作法については従来どおりに